

# 第2回全日本ペタンクシューティング選手権大会

(第9回パンパシフィックペタンク選手権大会日本代表選手選考会を兼ねる)

## 大会要項

主催	公益社団法人 日本ペタンク・ブール連盟 (JPBF)
主管	京都府ペタンク・ブール連盟
後援	アジアペタンクスポールブール連盟 (APSBC) タマホーム、 JPD 清水
協賛	JPD 京都ヘリポート、 クプレ
日時	3月7日(土) 雨天決行 12:30 受付終了 13:00 試合開始 尚、9:00から国際方式に基づく、シューティング大会の運営と 審判の講習会を行います。講習会のみ受講も可能です。
参加費	シューティング大会 2,000 円 (受付時にお支払いください) 講習会受講料 1,000 円 但しシューティング大会参加者は講習会の受講料は免除します。
会場	京都御所富小路グラウンド (京都市中京区丸太町通り富小路上ル)
参加資格	JPBF 会員 (当日入会も可: 小中高生 2,000 円、一般 3,000 円)

### 【競技方法】

#### 予選

6名1グループで投順を決定後、標的球に対して6mの距離からシューティングします。標的球に当たれば、7m、8m、9mと1mずつ後退し12球まで投球を続けます。

9mで当たれば再度6mから行います。

12球を1クールとし、7クール行います。(全投球数84球)

成績は命中した球の多い順とします。

同成績の場合は1クールでプレーオフを行います。

予選の試合方法については、国際方式とは異なりますが、出来る限り多くの選手にシューティングの技術向上を計っていただき、同時にその緊張感に慣れていただくために第1回大会の経験をもとに改良したものです。どうぞご理解の上、御協力をお願いします。

#### 決勝戦

予選上位8名(得点の高い順に男子4名、女子4名)が、国際シューティングルールに基づき決勝戦を行います。

## 【表 彰】

男女別 優勝 準優勝 第3位 第4位 (但し、決勝戦は男女別なく行います)  
副 賞 総合順位上位3名がチームを組む形で、第9回パンパシフィックペタンク選手権大会の日本代表選手としての出場資格を獲得します。  
(参加申込締切:3月末) 辞退者が出た場合は、主催者側で検討の上補充します。

## 第9回パンパシフィックペタンク選手権大会について

2015年8月29日・30日 ラオスで開催予定

副賞の内訳は、現地大会期間中の宿泊費、交通費、食費(2回の懇親会費を含む)大会参加費、日本代表ユニフォームとします。

既にパンパシフィックペタンク選手権大会日本代表出場権を保持しておられる方も大会への参加はできますが、選考会の順位からは除外いたします。

尚、自費参加はおおいに歓迎ですので詳細希望の方はお申し出下さい。後日要項をお送りします。

パンパシフィックペタンク選手権大会はアジアペタンクスポールボール連盟(APSBC)公認の選手権大会ですが、国際交流が目的で始まった大会ですので、国境や言語の壁を越えた楽しい交わりが伝統化しつつあり、各国の多くの選手から好評を頂いています。

申込方法 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスにてお申込み下さい。

郵 送 〒600-8412 京都府京都市下京区烏丸通綾小路下がる西側 四条地下鉄ビル6F  
第2回全日本ペタンクシューティング選手権大会実行委員会 京都事務局 宛

F A X (075)344-0012

申込締め切り 2015年2月28日 但し、先着42人で締め切らせて頂きます。

大会事務局 お問合せ先:当日を除いて午前9時から午後6時まで  
TEL:090-3718-4214(木村くみ子)

# 参加申込書

FAX : 075 - 344 - 0012

～ 該当する項目に 印をお付け下さい ～

第2回全日本ペタンクシューティング選手権大会参加  
国際方式によるシューティング大会の運営と審判講習会参加  
両方とも参加

男子

女子

選手氏名(フリガナ)

生年月日：西暦\_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日 年令：\_\_\_\_\_

パスポート： 有・無 有効期限：西暦\_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日

ユニフォームのサイズ： S M L LL XL

選手住所：〒 \_\_\_\_\_

Tel. : \_\_\_\_\_ (携帯番号： \_\_\_\_\_)

Fax. : \_\_\_\_\_

パソコンをお持ちの方はメールアドレス： \_\_\_\_\_

## 国際試合を観戦して思う事

ペタンクという球競技において、ティール（シューティング）という行為の正確さが、その戦いの勝敗に大きく関わると言う事は、私たちは体験を通して十分に知っています。海外試合において我が国の選手が、日本のペタンクの歴史はそれ程浅くはないにも拘らず苦戦を強いられるのは、このシューティングの技術の差が大きな理由である事は明らかです。国際試合でのシューティングコンテストでは、今までの日本選手の得点はせいぜい30点までで、それに比べて外国選手の中には50点を超える選手が多くいます。100点満点でのこの20点の差が、我々日本のペタンクの技術レベルの位置付けというのが現状なのです。

今回開催しますシューティング大会は、我が国のシューティング技術の底上げとその必要性を確認することが目的の一つです。今後各地において、このような大会をそれぞれ企画していただき、遊びを通し、ゲームを通してその技術を体得して頂く事が、ペタンクをより深く楽しむことにもつながることと信じています。

（熊谷 勝 記）